

国際ロータリー第2780地区第4グループインターシティミーティングが2月26日海老名ウイングスで開催されました。

池亀武士ガバナー補佐（茅ヶ崎中央RC）のポリオ撲滅に向けて、私たちロータリアンが何をこれから、行っていくべきを考えるための会議にしたいという思いを、主管する茅ヶ崎RCのIM実行委員会が半年がかりで準備をし、開催に至りました。

パキスタン大使の出席が直前まで確定できなかったものの、数社のメディアが取材にきてくれました。

下記は、毎日新聞2月27日神奈川版に掲載されました記事です。

毎 日 新

## ポリオ撲滅現状は

パキスタン大使報告

海老名

ポリオ（急性灰白髄炎）撲滅活動を推進する国際ロータリー傘下にある茅ヶ崎市や綾瀬市、寒川町のロータリークラブ6団体が26日、海老名市中央1のザ・ウイングス海老名で「子供たちにポリオのない世界を―私たちはパキスタンに何を出来るのか」をテーマに合同例会を開き、会員約150人が参加した。

例会では、来賓に招かれた駐日パキスタン大使のファルーク・アーミル氏が「撲滅活動を支援しているロータリークラブの皆さんには本当に感謝している。日本政府などの支援で撲滅に取り組み、難民キャンプなどにもポリオワクチンを届けているが、国境などの地方には届けることができていない」と述べた。

ロータリークラブの合同例会であり、駐日パキスタン大使、海老名市中央1で



また例会では国立国際医療研究センターの桜田紳策医学博士がパキスタンのポリオの現状について基調講演。桜田氏は「感染すると100〜200人に1人が運動神経まひを発症する。発症すると足の筋肉が細くなる。大人になると、まひはさらに悪化する」と疾患の特徴などを説明し、「ポリオは現在の自然環境の中には存在しておらず、人のみを宿主とする。根絶の戦略としては、すべての5歳以下の子供に対し、追加的に集団接種や適切な便検体の収集などが有効だ」と語った。

質疑応答では、会員から「パキスタンに渡航しても大丈夫か」「ポリオのゼロは可能か」と質問があり、桜田氏は「渡航には外務省の情報と現地情報が重要になる。症例は昨年20例。ここで活動の手を休めたら根絶は難しい」と撲滅活動の意義を強調した。

【長真一】

3種郵便物認可

神奈川 KANAGAWA  
yokohama@mainichi.co.jp

支局  
1-0005